

# ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

2000年 3月1日 発行

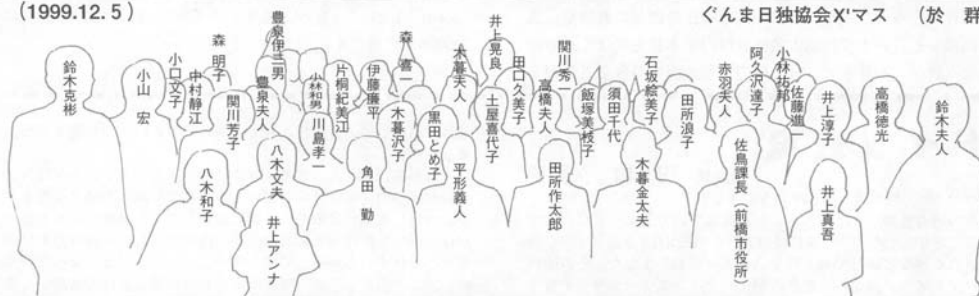
21 2000年  
の曙光

発行者 平形 義人  
発行所 ぐんま日独協会  
〒377-0007  
渋川市石原966 母心堂 平形眼科方  
☎0279-22-0149 FAX 0279-24-6867



(1999.12.5)

ぐんま日独協会X'mas (於 群馬会館)



## ■ハイマート21号の主な内容

表紙	1
巻頭言：ドイツ近況	2
X'mas：決算報告	3
エッセー	4
ドイツの日本食(女一代記)	5
中村鉦一氏追悼	6
習志野俘虜君	6
2人のドイツ旅行	7
全国日独協会紹介	8

## ブルーノ・タウト誕生120年 2000年ぐんま日独協会 協会と 特別講演 ご案内

日 時 ▶平成12年4月14日(金) 12:30~15:45  
場 所 ▶高崎市シティーギャラリーコアホール(市役所北隣り)  
参 加 ▶総 会……会員及び来賓  
講演会……一般希望者(入場無料)  
特別ゲスト ▶駐日ドイツ大使館  
フォルクマー・シュテッカー公使ご夫妻

スケジュール  
■総会(会員) 12:30~13:00  
■セミナー 13:00~13:30  
■ぐんま日独協会長 平形義人  
■ドイツ公使 フォルクマー・シュテッカー  
■高 崎 市 長 松浦幸雄  
「ブルーノ・タウトの映像を作る会会長」小山福一

■公開講演会 13:30~14:30  
講演者 作家・文明評論家 朝霞 久兒臣先生

題 名 「月とムカデと洗心亭」  
……タウト・邸一 虚空繪譚……  
14:30~15:30

▲講演者 武蔵野音楽大学教授 古池 好先生  
題 名 「ドイツの国旗と国歌について」

■開会行事 15:30~15:45

■マイカー散歩(市役所~洗心亭~高崎駅)  
①洗心亭 ②タウト遺品見学 ③記念植樹  
15:45~17:00

■会員は会費2,000円当日受付へ。  
年会費3,000円は別途納入してください。  
一般参加者は無料です。

■フォルクマー・シュテッカー公使をおむたへ  
伊香保温泉木暮金太夫ホテルにて18:30から有志の方  
のご参加を歓迎します。  
(1泊15,000円・日帰り10,000円)

題字：平形義人 表紙写真：角田 勤

# 2000年の日独交流の曙光

ぐんま日独協会会長 平 形 義 人

2000年を迎えて誰もが何が起こるか期待している。特に日独協会では1999年にドイツが建国50年、ベルリンの壁崩壊10年・ベルリン遷都の年と云う節目の年である上に、2000年にかけて「ドイツに於ける日本年」と名付けて日独交流の為に国家的行事として、9月27日には秋篠宮殿下(皇太子殿下が名誉総裁)が名代として招聘されて、ブランデンブルグ門広場で1000余名の日本からの大デレゲーションを招いて鐘や太鼓、秋田の竿灯まで出演させて日独の親善を計り、各地に展覧会や文楽等を出演させ、日本文化のドイツへの滲透を計っている。日本側実行委員長は樋口広太郎(財)日独協会会長である。来る6月2、3、4日にはドイツの全国日独協会連合会がベルリンで催され、ベルリン日独協会会長Günther Haasch(昨年ベルリン自由大学名誉教授就任)は特に創立110年の祝賀する行事を計画され、広く日本からの参加を求めている。

ぐんま日独協会は1988年4月即ちベルリンの壁崩壊の前年に発足した。爾来毎年春毎に大会を開催し、ドイツの要人を招き、懇親友好を謀り、勉強して居りますが、2000年正月のNHK教養番組にドイツ連邦共和国のボン大学の日本学の教授ヨセフ・クライナー博士の講演がありました。そのお話は1993年5月27日のぐんま日独協会での講演(ハイマート8号参照)をスライドを交えて更に深く広くされたもので、感銘を新にしました。即ちW.A.モーツァルトが歌劇「魔笛」の主人公タミーノの服装に日本の服装を指定したこと。支倉常長がローマ法王に謁見する時、能衣裳を着用したこと。出島のオランダ人が徳川將軍の拝謁に際して頂いた御褒美は日本の衣裳であり、各大名からのものも合わせると百着以上のものとなり、東印度会社の手を経て広くヨーロッパの社交界の流行の先端となったことが現在博物館の蔵品の着物から推察出来ると言います。東大名誉教授の常木實先生は「初めに文化(科学)ありき」と日・独の百年余前の出合を具体例を

挙げて説かれました。正式の国交は1861、1、28プロイセン(Preußen)国王と明治大帝(Kaiser Meiji der große)の名で日独修交条約が結ばれた時に始まったが、実際には1690年(元禄3年)ドイツ人医学者、博物学者、歴史学者Engelbert Kaempferが、オランダ東印度会社の医師として日本に渡来したのが始りである。1823 Philipp Franz v. Sieboldが長崎に上陸して、日本文化の高さと、日本人の優秀な国民性を認め、喜んで日本人の教育を引受け、且つ多くの著述により、ヨーロッパの人々に日本の姿を紹介してくれた。之は帝国主義的植民地化思想とは違い、崇高な人道主義的研究成果である。今ドイツの若者はSonny、Honda、Seikoの名を知り、日本の若者はRöntgen、Diesel、Goethe、Heine、Hesse、Kantの名を知らぬ人は殆どいない。

国家間の交流は、文化・学問を通じての両国民の心の結びつきで、之が基本である。と説かれている。

今年は草津町で町政施行100年記念とベルツ先生生誕100年を記念して“ベルツ館”を建設されるし、高崎市では市政100年を記念し市民が発案して「ブルーノ・タウトの映像を作る会」(会長 小山禰一)を発足させ、高崎市少林山の洗心亭に起居されたタウトの生誕120年を記念顕彰しようとされている。2000年の日独文化交流の曙光が上州に輝きを始めたいです。

小淵総理は議会で日本の国旗と国歌を制定されました。この機会にぐんま日独協会では「ドイツの国旗と国歌」に就いて学びたく武蔵野音大古池好教授を招き、又「もうひとりのブルーノ・タウト」の著者朝雲久兒臣先生に天才タウトを再評価して頂きたい存じます。

昨年はゲーテ生誕250年でした。彼は人生の最後の言葉に“Mehr Licht”(もっと光を)と希望しました。今我々は2000年紀の曙光を求めて進みます。

## ドイツ近況

建築家 田 口 久 美 子

ベルリンの壁破壊から10年になりました。あの時の感動は一生忘れることが出来なんでしょう。私が留学致しておりました20数年前には誰もがこの先100年東西ドイツが統一される事など決してあり得ないと思っておりました。その頃はルーマニアやソ連からの亡命者がゲートインステチュウトと言う語学学校にも何人か通って来ており、亡命時の苦労話や国に残した家族の話に涙しておりました。かれらのその時の表情があの壁の破壊と言う衝撃的なテレビを見ながら思い浮かべられて涙が止まりませんでした。そしてベートーベンの交響曲第9番「短調作品125(合唱)」の指揮：レナード・バーンスタインによる1989年12月25日ベルリンライブによる録音のCDを買い求めました。合唱ではFreude(よろこび)と歌うところをFreiheit(自由)と歌っている感動的なものでした。

東西統一後のベルリンには3回訪れあまりに変わり行く街の様子を建築家である私は大きな興味を持って見てまいりました。昨年11月末に訪れたときには後少して中央駅が出来上がる所まで来ており、首都ベルリンも目に見張るほどになって来ておりました。都市機能の点でも中心市街地活性化などと後々問題が起こらないよう商業ビルにおいても20%～60%と住居部分を法律で義務づけられておりドイツ各都市では1970年代には市民が街中に戻って来ているのです。日本では住居や、商業施設そしてさらに学校まで

郊外に移築している現状これでは街のにぎわいも取り戻す事は出来ないでしょう。

それからフランス、スイス寄りに位置するフライブルク郊外に市民が原子力発電所はいらないうところから太陽光発電をフルに利用し電気自動車そして駅に隣接して貸し自転車ビルと市民がほんの少しだけがまんしたり不自由を共有して今自分たちに何が求められているかそして何十年か先にこの街がどうなっていくのか。この国がどうあるべきか市民が市の建築計画の段階から参加し考えていく住民不在ではあり得ない政策になって来ているようです。

私は日本の素晴らしい歴史の重みや長さを大事にこの国を愛して行ける市民の目覚めを切に希望しているのです。

さて今回の視察旅行ではエコハウスや路面電車そしてソーラ電車などのセミナー自由時間はカールスルーエでは、チェコ室内楽九重奏を大学時代お世話になった教授夫妻からご招待いただき楽しい時間を過ごしました。

またベルリンではカラヤンサーカスと呼ばれているベルリン・フィルハーモニーでコンサートを翌日には国立オペラ劇場でフィガロの結婚を楽しんで参りました。(5頁に写真掲載)

いつも思うのですがドイツでは大人が楽しめる夜の時間が長いような気がいたします。

時間が許す限り教授夫妻の所におじゃましたりFAXで文献をお願いしたりとこの先も良い友人達との交流も大事にして行きたいと思っています。

## 「Xマス・パーティの集い」

伊藤 康平

1999年12月5日、ぐんま日独協会恒例のXマス・パーティが群馬会館地下食堂で開催されました。

会員および家族合わせて72名が参加して下さいました。今回はアトラクションとして、平成10年津軽三味線全国大会優勝者である石川一君が開会に先立ち、日頃の努力の結晶である津軽三味線の真髄を、その力強いばちさきで披露して下さいました。

石川君は当協会副会長である対馬良一氏の甥に当たる方です。国内各地をミニコンサートで演奏され、知名度も高く今後の活躍が期待されます。

午後2時には会場も満席となり、Xマス・パーティが始まりました。角田副会長司会で進行し平形会長の挨拶、次いで前橋市長の祝辞が同市の佐鳥企画課長により代読されました。乾杯の音頭は佐鳥氏が上げて下さいました。

久しぶりの会合で会場もなごみ、各テーブルで談笑の輪が広がりました。

共愛女学園出身のO・Bの方々によるXマス・ソングが斉唱され、大会の気分は盛り上がりました。

今回は会長様のご好意によりシクラメンの子鉢が参加者全



員に贈られました。

赤い衣装を着て白髪を付けゴム長をはいた(伊藤・川島両氏)サンタのおじいさんが各テーブルにシクラメンをおとどけ致しました。

この間会員の方々による二分間スピーチがあり近況報告や新会員の自己紹介もあり所定時間内に発言をすませることが出来ました。

何と言ってもXマス・パーティの最大のたのしみはXマス・プレゼントの交換であります。

田口、土屋両幹事のユーモアあふれる司会で贈物が次々とお客様に手渡され、全員にお届け出来ました次いで全員による讃美歌斉唱があり、更に佐藤進一先生の指導でドイツ歌曲の合唱がありました。又欧州各地の民謡にくりしい鈴木克彬ご夫妻がフォークダンスを披露して頂きそのあと参加者も相互に手を組んで、軽いステップをふんで身も心もリラックス致しました。

記念写真も取り終えて四時半に閉会となりました。

参加される会員の皆様ご協力ありがとうございました。感謝いたします。

来るべき平成12年のXマス・パーティにもお元気でご参加下さい。たのしみにお待ち申します。

平成12年1月26日記



### 収入の部 平成11年度ぐんま日独協会収支決算

項目	金額	説明
会費	667,500円	年会費(個人) 3,000円×100人=300,000円 (家族) 500円×15人= 7,500円 (法人) 10,000円×36社=360,000円
総会・大会	287,000円	昼食会 5,000円×45人=225,000円 総会 2,000円×31人= 62,000円
クリスマス会	143,000円	会費(大人) 2,000円×69人=138,000円 (子供) 1,000円×3人= 3,000円 プレゼント代 1,000円×2個=2,000円
利息	119円	7月1日 93円 8月14日 26円
寄付金	90,000円	平形 義人 60,000円 島田 卓彌 10,000円 鈴木 克彬 10,000円 対馬 良一 10,000円
前期繰越金	129,602円	1998年度(平成10年度)
計	1,317,221円	

### 支出の部

項目	金額	説明
引越し費用	14,175円	6月28日 車代等
交際費	40,000円	6月9日 掛け軸 (3万円) 11月25日 陳中見舞い (1万円) (島田卓彌様)
クリスマス会	206,625円	食費・シクラメン等
印刷費	229,320円	ハイマート20号
事務費	42,076円	スリム&ヘルス支払い・シール・コピー用紙・年会費重複者返金等
講演会費	404,127円	謝礼・大会用菓子・タクシー代・講演会費用・昼食代
通信費	76,344円	郵便・切手・電話代
計	1,012,667円	

収入1,317,221円-支出1,012,667円=繰越金304,554円

304,554円が平成12年へ繰越

### 会員通信

ぐんま日独協会主催によるメリークリスマス! 会員の皆様ご一同ごぞって楽しい思い出のクリスマスでありましたご様子、平形会長先生熱ある意義深いお心ざし、力こそ私は学ばんと気をひきしめておるしだい。ドイツ國の紹介の雑誌「ドイツゲートと共に素晴らしい旅」「ドイツの実情」を感銘深く読みつづけておる次第。私は急病になりクリスマス会には出席できず、重々残念でした。その私に対して記念を賜る深きお心に誠に嬉しく紙上ながら御礼を申し上げます。

(草津 坂本喜市 2月10日)

本日は大変お世話様になりました。高崎迄お出掛け頂きましては恐縮に存じます。シティギャラリー・コアホールを会場とする4月14日の大会の骨子が出来何よりでした。以下略

(高崎 豊泉伊三男 12月11日)

### (1999 12/13) 東京のeV日独協会クリスマス(ホテル・ニューオータニ)



左より 東山彪夷夫人すみ様、平形、木村副会長FStoecher公使  
(詳細 Die Brueke 7~8 ページ参照)

## 渋川村の隠れ医師

### 「沢三伯」こと高野長英の顕彰とぐんま日独協会クリスマス

小山 宏

99年、県都前橋市でのクリスマスの集いで、J. Brahmsの子守歌の原語の合唱は素朴でありながら、しっかりとした詩を唱って清らかなムードにつつまれ、一瞬、心に響くものがありました。アトラクションの津軽三味線の熱演は、参加者の何人にも芸術と伝統の素晴らしさを伝えたと思います。弦をグットーしぼって、早いリズムとテンポで演奏をきわ立たせ、幾度か聴いた竹山師とはまた違った趣きがあり、清純なすがすがしさに満ちていました。実に素晴らしい一時を満喫させて頂き、この催事にご苦労された各々に心からお礼を申し上げます。

シーボルト、エルザイン v. ベルツ、ブルーノ・タウトのかすかな私の知識、群馬での歴史の足跡と、自身では以前に動物学で師事した北海道大学農学部長内田登一博士夫婦の四十年にわたる渡独生活を折々に聞かされた程度ですが、シーボルト鳴鶴塾の学長高野長英の上州足跡に、当小山家母系の森田氏が、水沢街道を経て伊香保温泉へ案内した古文書を知り、この街道沿いに私が設立した郷土館(博物館)の一角に長英ゆかりの何がしかを顕彰することを考えていました。

たまたま、「花ベルツの生涯」の作者で在独のシュミット村木女史の助力で、伊香保温泉金太夫、木暮先生とも会い、ブランデンシュタイン古城に住まれるコンスタンチン v. ブランデンシュタインツェペリン(伯)様から、短文ですが心のこもった、高野長英讃辞の一文を得て、小さな碑を立て、さらにここに先の森田家より嫁した森田鳳子(小山與兵衛妻)の墓所が高崎の区画整理にも合ったので同じく安国寺、大正大学理事長大田上人の協力で郷土館に資料として石仏も移築しました。

万代御蔭石の弥陀座像は長英の時代と史実とが重なり石仏は江戸期の特徴がよく残り「根津美術館品より優品」と評され、水沢観音めぐりの参拝者に一趣を添えています。

これは、また、オウム騒動をはじめ現代日本の荒廢をかえりみ一石と考えています。 それにしても私は、EUの地味ではあるがしっかりと足取りに注目し、ユーローの経済的な位置と価値感にそれなりの好感をもっています。全々、ドル基軸の経済社会はきわめて変動幅のある動きで、決して世界の庶民の安定した幸福感や生活環境を維持しているとは思いません。

なかでも、ドイツは現在でも政府と企業が戦後処理に正面から取り組み、誠実に賠償に応じています。このことは、ヨーロッパを中心に世界史の中で、ゆっくり時間をかけて信頼を習得し、やがて政治、経済、文化の求心的な存在となると私は予測します。

このことは、日本の国際化に対するポリシーと違うという認識を、オピニオンリーダーは深く受けとめて日本の将来の舵取をミスしてはならないと思います。

「ぐんま日独協会」の小窓から、まだ見ぬドイツの風を皆様からいただき、今年、東京大学での全国博物館館長会議でのベルリン博物館情報部長の一言「人間は試行錯誤の繰り返しでしか知識を得られない、博物館はその資料を提供するところなり」というのを想起して、21世紀へむけて、また、群馬の博物館活動を足元からすすめる気分です。

日本一津軽三味線石川青年とその師のあいや節の肉声を耳に残して小文をつづりました。

1999年12月吉日

上毛民俗学会会長 日本民俗学会会員

## ベルツ博士と新島襄

敬和学園大学長

北垣 宗治

平形義人先生

お心のこもったお手紙、嬉しく、有難く、繰返し拝読しました。「ハイマート」をも興味深く拝読、先生にお目にかかった時いただいた名刺は、ぐんま日独協会会長という肩書きのものであったことを思い出しました。「ハイマート」により、ぐんま日独協会のご活動のようがよくわかりました。

昨年十月に渋川にうかがいました時にお目にかかり、握手をして頂きました母上様が今年3月に永眠されましたとのこと、謹んでお悼み申し上げます。70才を聖書の年齢と申しませんが、百六歳は信仰の年齢であると思います。「主は強ければ我弱くとも懼れはあらず」一何百回、何千回となく歌われた讃美歌の一節が百六歳にして、告白のかたちで表明されたものでありましょう。私は今聖書の年齢ですが、これから先は信仰の年齢に神様の恵みによって近付けるよう、日々努めていきたいと存じます。一略一

ぐんま日独協会ではベルツ博士の生誕百五十周年の記念行事を開催なされましたとのこと、晩年の新島襄もベルツ博士の診察を受けています。1888年5月、新島はベルツの診察を受けるために、これまでの麻布の宿を出て東京大学に近い、駒込西片町の木村熊二方に移っています。5月9日ベルツの診察を受けました。そして日記に「ベルツの診察を乞へり……心臓はジギタリスノ過キタルニヨリ休薬ヲ命ス サリツル散モ止ム 胃モ甚悪カラサル由」と記しています(『新島襄全集』5.305)。

同年6月29日、再びベルツの診察を受けた新島は「回復ハ期スベカラズ」と記しています。7月9日、三度目の診察のと

き、夏の保養について相談しています。そして日記には「海にトカク病人ヲシテ心経高キヲ覚エシム、食物サエアレハ高燥ノ地ヲ以テ最上トス」とあります。こうして7月27日、渋川をへて伊香保の木暮武太夫方に到着しました。出発するとき、新島は山籠に乗って前橋に向かったそうです。一略一  
先生から頂いた木(キャンベラオーク)を写真でご報告すべきところ、その機会を得ません。この次にさせていただきますこととお話し下さい。どうか先生とご家族の皆様が、お元気で、よい年をお迎えになりますよう心から祈念いたします。

(〒957-8585 新発田市富塚1270) 1999.12.29

### 俳句

じよんがらに凍てし津軽の響き聴く

小林 和男

津軽三味第九奏せしクリスマス

廢城の満松聴き入るあいや節

空っ風じよんがら日本一漂とたつ

(たつは演奏するところ意味もありませ)

小山 宏

### 短歌

二千年 わがゆく末を想いて

愛犬と共にカウントをする

友三人 えのぐ片手に四万のゆで

心と身体ぬくもりで

土屋喜代子(前橋)



# ドイツにおける日本食文化

清水 恭代  
(しみず やすよ)

今日は、私の人生半分を過ごしてきました[21年間のドイツ生活]の中から、いくつかテーマを絞ってお話させて戴きます。

さて、歴史を大切にしているヨーロッパの国、ドイツでは、アメリカ、又日本のように常に売れる為、買わせる為のブームで盛り上げの激しい波はありません。一つの物が良いと認められ、一般レベルの家庭まで取り入れられ定着するまでには、長年の月日がかかり、そして、定着した物は、長年愛されいろいろな分野で取り入れられています。その一つの例として、今日までの「ドイツにおける日本食文化」の流れをお伝えしたいと思います。これは私の夫が、23年前から現在に至るまで「日本の食文化をドイツに広める」仕事を職業としておりまして、紹介がてらお話し致します。

今から、30年も40年も前に「サムライ」、「ゲイシャ」、「フジヤマ」、「キノ」の単語がドイツに入ってきた頃、「スキヤキ」がブームとなったものの、当時はまだまだある程度の高レベルの人でなければ、日本レストランへ行き、口にする事はできなかったようです。そして、約25年前、キッコーマン系の鉄板焼きレストラン「大都会」の展開により、「 Teppanyaki」が好評となったのは、目の前で調理と演出をしてくれる楽しさと自分の好みの味付けをしてくれること。その上、着物を着た日本人女性の心を込めた丁寧なサービスは、ドイツレストランでは味わえない雰囲気や今日も人気の絶えない場ではありません。ヨーロッパの流通機関も大変良くなってきた事から、ヨーロッパ中の、いや世界中の新鮮な食材が手に入るようになってきたこと。又、ヨーロッパの土壌でアジアの野菜を収穫する技術もだいぶ進んでいます。

そして、この約10年の流れで、ジャガイモからライスやヌードル。肉から魚。塩から醤油。バターからサラダ油。料理方法もぐつたり煮た野菜より、色取りどりの野菜をサラダ油でさっと炒めて、菌ごとえとビタミンを残す方がよい。と、自慢して話すのは若い人だけではありません。ヨーロッパの流通機関も大変良くなってきた事から、ヨーロッパ中の、いや世界中の新鮮な食材が手に入るようになってきたこと。又、ヨーロッパの土壌でアジアの野菜を収穫する技術もだいぶ進んでいます。

さて、「ヘルシー食」でこの3年前ごろから盛り上がっているのが、「スシ」であり、寿司ネタの名前もしっかり覚え、おまけに「ノリ」「ミソシル」「ニホンチャ」は、とても体に良いと喜んで口にするドイツ人の姿は、20年前はとも考えられなかったことです。

その他、「サシミ」「テンポラ」「ヤキトリ」「シャブシャブ」…と、日本食通の人は増える一方です。

今では、日本レストランの経営者、又寿司職人は日本人でなくては行けないと言う観念を破り、ドイツ国内に、ドイツ人が経営する「回転寿司」は既に5都市。

このレストランの開店のコンサルタントや日本大手企業何社かのヨーロッパ・ドイツ販売促進の依頼を夫の会社で受けています。スーパーマーケット、デパートの食品売り場で並ぶ「キッコーマンの醤油」、「日清食品のヌードル」「チョーヤの梅酒」。そして、ビール大国「アサヒビール」の進出受け入れられ、現地の大きなイベント会場では、日本の飲食のコーナーが大好評となっている今日です。

さて、話は変わりますが、海外で人と人との触れ合いの中で、初めて会う人に必ず聞かれるのが、「あなたは何人(なにじん)ですか?」の言葉です。

返事は、もちろん「私は日本人です。」この答えと共に背に感じるのは、日本の国旗です。ですから、日本人として恥ずかしくない行動をしようと考えているのは私だけではないと思います。そんな時、何年前かの「オウム心理教のサリン事件」(あまり宗教的な話は入れたくはないのですが)では、ドイツのテレビ、新聞等の騒ぎで、隣近所の方に聞かれる質問は、自分も知らなかった世界のことだけに、日本人としての恥ずかしさを感じたほどでした。海外に出ている日本人はもちろん、日本で暮らしている日本人も、国際人の一人としての考え方や誇りを持った行動をしてもらいたいと思うばかりです。私達家族がドイツでご縁があった人達は、どういふわけかお年よりのおばあちゃん達が多かったです。その中でも、一人暮らしの70歳過ぎのケルスティンさんに、こんな経験をさせて戴きました。フランクフルトでは私達家族とお隣同志でお付き合いがあったケルスティンさんは、私の二人の子供を孫のように可愛がってくれたり、

私にドイツ料理やケーキ作り、ドイツ人の几帳面な掃除方法と節約生活方法…等色々教えてくださった方です。若い時から自分で洋服店を営み、一度も休暇は取らず働き続け、定年後、船で世界旅行を楽しんでいる数々の写真に驚かされました。又、私達とご縁があったことから日本も訪れてくださいました。そんな楽しいお付き合いが約8年続き、私達がそこから少し離れた所へ引越してから1年程過ぎた頃でしょうか。一通の手紙が届きました。タイプで打たれてある文章は、どこかの局から……。しかし、一箇所だけ「Frau Shimizu: DM500-」と手書きのコピー。何処かで見たことのあるつづり。と、思いながら上から読んでいきましたら、何とその手紙はケルスティンさんの死の知らせと遺言を伝える物だったのです。ケルスティンさんは、体調が思わしくなく、保養の為に南ドイツ方面へ行く途中、ある駅から駅の間で電車の中で息を引き取ったとのこと。

私は、その手紙の内容がわかった時、涙が溢れ、揺れる電車の中から遠くの風景を見ながら静かに目を閉じたケルスティンさんと思い、一晩中泣いていました。次の日、夫と子供達はその手紙の事を伝えたと、さすがに驚いて寂しい顔をしてました。

ケルスティンさんは、ご自分の命がもうあまり長くないことがわかっていて、残る遺産をどうするか決めていたのでしょうか。それにしても、私宛の遺言、DM500-は日本円にしましたら35,000円程のものですが、ケルスティンさんが節約した1年分の水道料と、旅行へ出かける前に必ず全てのコンセントを抜いて節約した電気料だと考えますと、大変貴重なお金であること、私にはひしひしと伝わってきました。

1年後、ケルスティンさんのご兄弟から、遺言通りの金額が私の口座に振り込まれました。そして、私達家族ができる最後の感謝の花束をケルスティンさんのお墓へ届けました。家族でなければ親戚でもない「外国人」の私達に、人と人との触れ合いの間には「外国人」という言葉はないこと、しっかり教えられました。風習、習慣が異なった国で育ってきても、共に笑い、泣き、励まし合い、心を伝えようとする努力を重ねるほど、相手に伝わるものは大きい。言葉が100パーセント通じなくても、一番大切な「人の心」を理解できることがどれだけ大切であるか。

ケルスティンさんの例はその一つですが、21年間のドイツ生活でやはりご縁の合った人達、そして今も尚、手に手を取って、夫のパートナーとして仕事に励んでくださっている現地の人達に心から感謝せずに入れません。

## 自己紹介

氏名: 清水 恭代(しみず やすよ)  
1956年生まれ 群馬県利根郡昭和村。利根沼田商業高等学校卒業。関東調理師専門学校卒業。  
1976年(当時20歳)、ドイツ・ハンブルグ市にあるキッコーマン系レストラン「大都会」にサービススタッフとして入社。  
3年間の契約満了後、退社。  
この丸3年間の間、お世話になった、あるドイツ人の家庭で家族同様に、「ドイツの生活」を体験する。  
・結婚。二児あり。  
・ハンブルグ市10年、フランクフルト市11年、合計21年間のドイツ在住。  
・ドイツ料理、ケーキ作り  
・室内装飾、その他の手工芸も取り組み。  
・「アイデア日本料理」の商品開発の企画。  
Yasuyo Shimizu  
Kurhessenstr. 92  
60431 Frankfurt am Main  
Germany  
TEL: 069-53089869  
FAX: 069-95297276 (フランクフルト)



ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートホール  
田口久美提供

# 中村 鉦一さんを悼んで

海部元総理 友人代表 甲辞野君



甲、e.v.日独協会プリユツケ

## 弔辞

西暦二〇〇〇年の一月四日午前九時二十五分、東京都港区赤坂、日独協会事務局長、心不全のため急逝せられたの訃報に、我等一同驚愕絶倒の思いで御座います。暫く病床に在られたが、近所を散歩せられる位に良くなられたとばかりお聴き致して新春の御挨拶が叶うのではありませんかと期待していた矢先のことでありました。輝子夫人はじめ御家族ご一同様の御悲しみは如何ばかりかとお察し申し上げます。

願えば十二年前の一九八八年春、ドイツ連邦共和国大使ハリヤー閣下御一家を前橋商工会議所にお迎えして清水知事の下群馬交響楽団の国歌演奏に始まり、ぐんま日独の創立式典が賑々しく催された際貴下の三人の御孫孫の花束の贈呈の可愛らしいお姿が今でも眼前に浮かびます。十二年たった今、大兄の並々ならぬ御霊力に依り、ぐんま日独は全国五十余の日独協会に五して着々と日独交流親善に歩を進め昨春はエルビン・V・ベルツ博士生誕一〇〇年を記念する公開講演をドイツ大使館文化部長、カール・ケラ様の御臨席の下に開催致しました。

今年来る四月十四日高崎シティギヤラリー・コアホールに於てドイツ大使館より、フォルクマー・ステツカイ公使をお迎えして「ドイツの国歌と国旗」についてと、「ブルーノ・タウト」についての公開講演を開催する予定でございますが、大兄にも桜見物かたがた御臨席を願いたいが、希っていたところでありました。今年正月三日の教習TVにボン大学教授ヨセフ・クライナー教授が「ド

イツに伝はるる日本文化の教々」を丁寧にスライドを一枚一枚見せながら支倉常長能衣案で、ローマ法王に謁見してより、日本服飾がドイツで流行し、モーツァルトは魔笛の主人公に日本服を着る様に指示してある話までされました。この話をぐんま日独では既に平成五年六月廿七日に群馬会館大ホールの中でクライナー教授より聞きました。これも大兄が御招待の労をとってくれたからで御座居ます。名古屋に生まれた大兄が厚生省技官として御活躍中に糖尿に罹り自らの肥満対策としてのヤセ体験を世に問うその著書「ヤセ健康食」はベストセラーとなり「三時のあなた」のTVに出演しE.H.エリック、河内桃子の助演もあって、遂に「日本肥満予防協会会長」となり「KKスリムヘルス」の会長となり「清王寺薬局会長」として全国に名譽を轟かせ「ライオンズクラブの会長」として東南アジアの海岸にマングローブの植林事業を起し、自ら実践したその謙見と、実行は万人の模範として仰ぐところでありました。時にはカリブ海のクリジングや、アルプスやシルクロードからの写真を頂いて忙中閑ありの大人の風を現はす大兄の御永眠は定に信じ難いところでもあります。

本日は友人代表として海部俊樹元総理も御臨席されています。大兄の残された清王寺町の「花みずき通り」に愛車ベツを運転して又来て下さいといふ叶わぬ事とは知り乍ら願はたいはいられません。積る思いの一端を述べ、御冥福を祈って弔辞とします。

二〇〇〇年一月七日  
ぐんま日独協会  
会長 平形義人

## 中村さんを悼む 佐藤 進一

本会名誉会員中村鉦一様は去る 1月4日午前門松も取れぬ松の内の暖かい日射しの中、ご家族の方々に見とられつつ永遠の眠りにつかれました。突然の訃報に接し会員一同驚き入り謹んでお悔み申し上げます。享年74歳との事です。

先生は名古屋生まれの薬剤師でしたが縁があって前橋の薬剤師輝子夫人と結婚され昭和28年現在の清王寺薬局を開設され、忽ちの内に店舗を拡張されました。現在日吉町となっている地名も当時は清王寺と云ったものです。高度経済成長と共に事業は発展しましたが、自分の肥満と糖尿病に気付き、食事療法を考案しま

した。これが中村式健康食療法で、今では全国に知らせる様になりました。

以後本格的に肥満予防に取り組み、予防協会の会長として広範囲の活躍をする様になりました。ぐんま日独協会創設の時も、私がお願ひして参画して頂き以後お世話になることとなりました。当協会に事務所としての建物がないのを見兼ね、ご自分の店を開放貸与され、多大の便宜を与えられた功績には、重ね重ね厚く御礼を申し上げます。又、ライオンズクラブの会員並びに会長として地域の発展に力を尽くされ、日吉地区区画整理推進委員として、市政の伸展にも貢献されました。

今は只先生の温厚な人柄を偲び、生前の業績を讃え謹んで安らかな永遠の眠りをお祈り申し上げます。

## ドイツ人の見た NARASHINO 習志野俘虜収容所 (1915~1920)

2000.1/15~1/30ザ・クレスト・ホテル津田沼にて特別史料展が催されDr.Uwe Kaestner大使、習志野市長、日独協会々員等多数参加し、多大の感動を与えた。当時の収容所長は西郷隆盛の長男西郷寅太郎大佐 (18才~25才までドイツ士官学校に学ぶ) で、大正8.1.1 元旦の式辞を終えた夜スペイン風邪のため逝去。俘虜君には25人のスペイン風邪の死者を出した。寅太郎の息子は法務大臣をした西郷従道であり、その御子息吉太郎 (52才) が当日出席された。尚、東大外科教授スクリバ先生の次男は青島で俘虜となり習志野収容所に入り、その娘Emmy IWATATE (帝國医卒) が前右から3番目、5番目西郷、4番目千葉県会長加藤、次が花井常務理事です。当時の新聞は俘虜に「君」をつけ、俘虜はソーセージの製法を初めて日本に伝授した。運動 (サッカー、体操)、音楽会 (演奏のプログラムも沢山残っている。) 約1000人の俘虜と日本人との文化交流の跡は今日墓地の整備からも覗える。Uwe Kaestner大使もこの事実を海外にも示すべきだとの御話であった。



↑ ぐんま日独協会  
↑ 平形義人  
↑ Emmy IWATATE  
スクリバ教授の孫  
↑ 西郷吉太郎  
↑ 千葉県会長  
加藤吉昭  
↑ 花井 清 (二列目)

## はじめてドイツを訪ねて

理事 小林和夫 (高崎)

1999年9月4日(土)～同15日(水)の12日間、NHK学園の海外スケーリング「スケッチと美術鑑賞」ドイツ訪問の旅に参加(一行40名)致しました。

ハイデルベルク、シュヴェービッシュ・ハル、ローテンブルク、デュケルスビュール、ガルミッシュ・パルテンキルヘン、オーバーアマガウ、ミュンヘン、ランズフート等8都市をたづねて、美術館・博物館の鑑賞、スケッチをたのしみしました。私は行く先々の市庁舎やインフォメーションセンターを訪ねて、ぐんま日独協会理事の名刺を渡し、日本に来られるときは、ご案内等ご協力したい旨、表敬のご挨拶をいたしました。勿論、通訳のガイドさんを紹介しました。

この間、天候に恵まれ、例年になく暖かい(ドイツの方々の言)日々でした。以下、私がこの南ドイツ(通称ロマンチック街道)の旅で特に感じました事柄を列記してみました。

1. どの町も中世の石造り、赤屋根の姿のままで、ありし日とかわらぬロマンを語り継いでいるようでした。  
※戦争の跡も市民の負担で復元したそうです。
2. カラスの姿がみられなかったという事は、カラスが住みにくい国だと思います。日本と大変な違いで、環境がカラスに適合していないと考えます。  
※ドイツの町では、ごみは夜片づけられ、道は早朝に清掃されているようです。道路、歩道、自転車の区分がなされ、道路、歩道は石畳でした。
3. 大河も、小川も水が澄み、空カンやごみはみられず、きれいな大地、美しい町並でした。  
※スケッチをしながら、話し掛けてくるドイツ人の態度など気持ちのよい、清々しいものでした。
4. 車は音が静かで、停車中はエンジンを止めていました。  
※空気をきれいに保ちたい。エルニーニョをなくしたい——というドイツの人々の思考性が偲ばれます。
5. 夜間は星月夜が多く、美しい。  
澄みわたった夜の空は、満天の星月夜で、月も輝いている毎日でした。  
星月夜ゲータ泊りし窓辺かな (ハイデルベルクにて)
6. ドイツ人は食事に贅をつくさない。  
レストランで話題になりましたが、台所にマイナタがないという家もあるとか。それは調理の内容にもよることだと思います。  
日本のように、多種、多様ではないようでした。一般的には数種類の家庭メニューで過ごし、地味に暮らしているが、車や、家屋の中にはお金をかけ、豊かな心の充足を図っているようです。
7. テレビのアナウンサーは清楚。  
不快感はなく、アナウンサーは好感度の方ばかりでした。  
コマーシャルは殆どなく、テレビを楽しめる番組でした。
8. 庁舎の石造高層の内部は木造でした。  
ローテンブルクの高層は、市庁舎に付帯した石造りです。2マルクだったか3マルクだったか記憶がありませんが、有料でした。登り降り、一人づつで7～8階、否それ以上だったかも知れません。狭い木組みの階段をあえぎながら最上階にだどりつきました。最上階は回廊式の展望フロア。市街地や彼方の城、畑、川など一望できました。高層は1500年余の風雪にたえ、様々な想像……ゲータやシラーなどの時代が浮び、離れたい刻を過ごしました。
9. あちこちに、風力発電のプロペラ塔が目をはきました。  
電力を自然の利用(風)によって、余れば会社へ……。この風景は環境を大切にしているドイツ人の常識のようです。
10. 高速道路を拒否した町  
ナチスに立ち向って、自治を守った町がありました。オーストリー国境のガルミッシュ・パルテンキルヘンでした。町の南はヨーロッパアルプス。スキーや観光の名勝地です。ナチスに「ガルミッシュ」と「パルテンキルヘン」の二つを合併させられました。その自治を踏みにじたやり方に町の人々は立ち上がり、アウトバーンを、町の入口10キロの地点でストップさせ、大量の車と排気ガスを拒否したそうです。多くのスキーヤーや観光客は歓迎するし、ありがたいとは思いますが、生活環境を悪くされるのは困るという町の人々の自治の力が、一つにまとまったのです。  
私達が訪ねた6日目の夕方から8日目の朝までアルプスの白峰の美しさ、空気の爽やかさは、たとえようもないものでした。日本アルプスも素晴らしいが、空気の澄明さはヨーロッパにかなわないと感じました。  
以上の他、細かいことをあげればきりがないので、最後に先年亡くなられた東山魁夷のエピソードを書かせていただきます。魁夷

の画家としての偉大さはどなたも御存知でしょうが、美術を卒業するとき、魁夷は評価されなかった。失意の中からドイツ留学を望み、研鑽を積まれた。ローテンブルク城塞のあの森の深い景を、氏独特の霧・霧の動きを表現、感動的な絵にまとめられました。ドイツを訪ねるまで、あの森と霧(霧かも知れませんが)の大作のモデルがローテンブルクだったということを知りませんでした。  
魁夷を大人物に育てたのはドイツの大自然であり、ドイツの人々に負うところ多大だったのではないのでしょうか。

・過去のナチスのいまわしき歴史を二度とくり返すまいと、新憲法とその基本法。

・かたくなまでに、美しい都市美を形成している城塞都市の維持。

・環境の浄化に全国民が立ち上がり、結束している心意気。

・EU15か国の総生産の60%をドイツが占める経済力。人口8千万弱ながら日本に負けず劣らぬ大国ドイツ。そのドイツを訪ねることができた私は幸せ者と感謝しています。 了

## Eine Reise

宮城村 北爪和男

今は昔、32年前、私は農業実習生としてドイツで生活する機会を得た。僅か1年少々と云う短い間だったがドイツの人達の優しさ、親切、熱き友情に支えられ、実に充実した日々を過ごせた事を確り覚えている。

帰って間もなく、私は土や草木の薫りを愛でる素朴な田舎娘と結ばれたのだが、多分、帰国直後と云う事も手伝って、楽しかったドイツでの思い出話を耳にタコができる程聞かされていたに相違ない。不平も言わず素直に農に動しむ妻を見ていると、話だけでなく本当のドイツへ、自分が体験した得難い感動の旅へ案内してやりたいものだと強く思う。そう思いながら30年が経過してしまっただけ。年間を通して1日とて手の抜けない酪農業と云う因果な職業を選んでしまった所以である。近年設立された酪農ヘルパー組合に懇願して、ようやく10日間の連休が許されたのは夢の如かった。2000年1月11日、格安航空券を手に入れた。ルフトハンザ機にてフランクフルトに到着、夢は現実のものとなった。

感動の旅は離陸直後から始まった。好天に恵まれ成田からフランクフルト迄約12時間ずっと下界が見えていた。妻は一睡もせず飽きず眺めていた。32年目のドイツ、何処へ妻を案内しようか? かつてお世話になった数軒の農家や畜産試験場等々を訪ねたい、沢山の旧友や知人にも会いたい、ドイツ語を習ったゲータ語学校も訪ねたい、そして日本で知り合った多くのドイツ人家庭も訪ねたい。でもこうした沢山の希望を叶えるには9日間では所詮無理難題。それに今回の旅の目的は旧交を暖め談話好笑的事に非ず、初めて海外旅行する妻の添乗員なのだ。

少しでもドイツを善く見ようと、朝未だ暗い内ホテルをチェックアウトして旅を続けた。ジャマンレイルバスを有効利用し、ドイツ全土を巡りたいと欲張った。しかし9日間はeinen Augenblickだった。バイエルン地方とライン河沿を少々見ただけで旅は終わってしまった。だが、しかし、である。ドイツは我々田舎者夫婦を決して裏切る事なく、温かく迎えてくれた。車窓からの眺望だけで心ときめき、胸おどる。教会を中心に村落が構成され、各々が地方独特の家並と景観や雰囲気を持っている。街道は美しい景色の中を走り、十分手入れされた畑や牧草地、森が続き、次々と古城や宮殿が見え隠れする。どんな小さな村や町にも古城や名所旧跡が有り、昔日の輝きと栄光にじゅくりと浸る事ができる。(但、美しい森は昨年12月26日強烈な暴風雨がヨーロッパ各地を襲ったと云う事で到着地倒木が見られた。)

昔お世話になった農家を訪ねる為ミュンヘンからオーバーバイエルのテューゲル湖に向かった時、雪景色には違いないのだが、陽の光が眩しく輝く中、気温が低い為、見晴らす樹氷の世界であった。唯でさえ美しい牧歌的な村や町、神秘的な教会や古城、そして美しく深い森、それ等の全てが純白に凍てついているのだった。カメラを手に妻は、たった一両のラッセル車の中を、前後へ、落着かない。メルヘンの世界だ! オトギの国へ来たゾ! 絵葉書より写真よりズット奇麗だ! 夢ではなさそうだが! 眩きには大き過ぎる声で妻は唯々感激、感嘆する許り。お客様の喜びは添乗員の喜びでもあるのだ。

到着後で多くの親切を受けた。心豊かな多くの人々と出会い、知合いになった。この田舎者夫婦の二人旅を最初で最後にしたい。頻りにドイツへ行く事になる、その足掛かりとしたい——と念じている。

